

基本構想 「将来像」について

1 将来像を考える視点

- ・「みんなの想い集」の5つのたいせつなモノ
⇒笑顔／あいさつ／役割／つながり／愛着
- ・市として今後特に力を入れたいカテゴリー
⇒人づくり／子ども／自然環境

2 他市町のオリジナリティがある将来像の事例

- ・島根県海士町 『島の幸福論－海士ならではの笑顔の追求－』
- ・高知県佐川町 『まじめに、おもしろく』
- ・鳥取県智頭町 『一人ひとりの人生に寄り添えるまちへ』
- ・高知県十和村（現・四万十町）
『自然が大事 人が大事 ヤル気が大事』
- ・群馬県前橋市（前橋ビジョン） 『めぶく。』

3 市民との検討結果

(1) 将来像に求めるイメージ

- 「長久手らしさ」を感じられるオリジナリティがあるもの
- シンプルに表現されたもの
- 「こんな将来像を掲げるまちに住めて誇らしい」と感じられるもの
- 見た人に考えさせるような「余白」「言葉足らず」感があるもの
- 「ジブリ感」があるもの
- 総合計画の愛称「ながくて未来図」になぞらえたもの

《裏面へ続く》

(2) 将来像の候補（案）

➤ きづき、きずく。

⇒まちの資源や課題に「気付く」、これからさらにまちや人と人との関係性を「築く」という意味が込められています。

➤ 手と手で創造 活緑のまち 長久手

⇒手を取り合って、まちの宝である「緑」をさらに活かしていこうという意味が込められています。

➤ 一歩前へ、二歩未来へ。

⇒2050年という「未来」を見据えて、まずはそのための一歩を踏み出そうという意味が込められています。

➤ 育む“わ”～笑・和・輪・羽・話～

⇒5つの“わ”（笑＝「笑顔」／和＝「平和」／輪＝「つながり」／羽＝「羽ばたく」／話＝「対話」）を育んでいこうという意味が込められています。

➤ けもの道をいく。

⇒人口減少・少子高齢化という難しい時代に、市民主体という難しい手段で進んでいこうという意味が込められています。

➤ 冒険の主役はぼくら ながくて未来図

⇒愛称「ながくて未来図」になぞらえて、この計画を進めていく当事者は「ぼくらみんなだ！」という意味が込められています。